



年頭のご挨拶

静岡県中小企業団体中央会

会長 諏訪部 敏之

明けましておめでとうございます。

静岡県電気工事工業組合様に於かれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の我が国経済は、人口減少が進む中、生産年齢人口の縮小による労働力確保、高齢化の進展など人口構造の変化による市場の縮小やニーズの変化などに加え、世界経済全般が先行きを予測しにくい状況にあり、我々中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しいものでありました。

反面、円安をベースとした景気の回復基調や株価の上昇などがあり、変動の激しい年となりましたが、その中にありまして、県内の中小企業の景気は、業種や地域に依りまして差はあるものの、総体的には、やや回復基調にあると言われております。

昨年11月の日本の景況発表に依りますとGDPは伸びているが、消費は依然として下降傾向にあるとされておりました。この景況を見ますと中小企業の景気が、まだ、十分に回復していないことを物語っていると感じます。何故なら、中小企業は日本の全企業の99%以上を占め、労働者全体の7割以上を雇用しているのですから、中小企業の景気が回復し、そこで働く社員の年収が増えなければ、消費は回復しないことは当然です。

そう言った面で、我々中小企業は、日本経済の下支えをしているという位置付けに誇りを持ち、その与えられた責務を果たすべく努力を重ねて行かねばならないと、その責務の重さを痛感致します。

さて、貴組合に於かれましては、我々が家庭生活や経済活動を営む上で、最も重要な資源である電力を潤沢に使用出来るように、組合員企業に対して、電気工事に関する技術指導・教育や情報の提供、電気工作物の調査・点検業務の共同受託など、多岐に亘る事業活動を展開されており、その活

動に対しまして、電力使用者と致しまして感謝申し上げますと共に、敬意を表する次第であります。

先程来、申し上げておりますように、我々中小企業を取り巻く経営環境は予断を許さないものがありますが、このような時代にあつては、中小企業単独では解決できない経営課題も多くあります。これを解決する手段の一つとして、企業間の「連携」の力が必要であり、今まさに、中小企業の課題解決に取り組み、発展を目指す中小企業組合の重要性がますます高まっていると言えます。

中小企業がこれまでにない新たな課題に直面する中であつて、組合もそのニーズに柔軟に答える“リノベーション”に取り組む必要を迫られますが、組合がその役割を全うしてこそ、中小企業振興の「切り札」となるものと考えます。

また、静岡県に於きましても、中小企業・小規模企業の振興強化を目的とした条例の具体化が推進されており、その目的達成に向け、中小企業組合の役割と中央会の役割の重要性を認識戴いておりまして、今後、更なる中小企業への支援が大いに期待されるところであります。

新年を迎え、我々中央会役職員一同、唯一の組合支援機関としての職責を全うするため、新たな気持ちで皆様との連携を更に深め、業務に邁進して参ります。

結びに、貴組合並びに組合員各位に於かれましては、「連携」の力を遺憾なく発揮され、本年が皆様にとりまして、希望に溢れる1年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。